

スポーツ

高校野球の第71回春季関東地区大会県予選第6日は21日、高崎城南球場などで2回戦6試合を行い、高経附が安中総合を1-0で制した。シードの樹徳が延長十二回の末に西邑楽を6-3

で破り、高崎商大附が昨秋8強の館林を4-0で下した。この日で16強が出そろった。大会第7日は24日、4球場で3回戦8試合を行い、8強が決まる。

関連記事 14面

高経附

緊迫の投手戦

春季関東高校野球県予選

サヨナラ



安中総合-高経附 9回裏高経2死三塁サヨナラの中前適時打を放ち、サインと喜び荒居(右から2人目)高崎城南

▽2回戦
安中総合 0000000000
高経附 000000001x10

高経附が投手戦を制した。先発右腕の萩原は変化球を主体に打たせて取る

投球。相手打線を100球で4安打完封した。攻撃は最終回、四球と樺沢の安打の後、荒居が適時打を放って勝負を決めた。

安中総合は三回、伊藤が三塁打を放ったが、後が続き、好投の清水を援護できなかつた。

「1点の大切さ」意識

高経附・萩原悠太、安中総合・清水惇の両右腕による投げ合いは、最終回に地力を見せた高経附に軍配が上がった。小池美徳監督は「相手は予想以上に良い投手だった。よく食い下がった」と選手をたたえた。

萩原はスライダーとチェンジアップが武器。長打を狙う打線を警戒し、低めに集めた。野手は事前情報よりも、相手が引く張るスイングの傾向にあることを共有。配球に合わせて守備位置を変え、16個の飛球を取った。

高経附が守備に気を配る理由は昨秋の苦い記憶から。エース萩原ら多くの選手が前チームから出場しており、昨秋の県大会も期待されたが、初戦の高崎商戦で九回に逆転サヨナラ負け。2死まで追い込んだが、あとアウト一つが遠かった。

「油断していた」と捕手の清水翔太。チームは「27個目のアウトを取りきる」ことを冬のテーマに設定。ケース打撃を行い、1点の攻防を常に意識してきた。サヨナラ打を放った荒居優

斗は「1点の大切さは分かっている」と胸を張った。次戦で勝利すれば2016年の秋以来となる8強入り。萩原は「今日はロースコアだったけど、次は打線が打ってくれる」と期待を込めた。(落合琢磨)

きのこの結果

2回戦	高崎城南	0	安中総合	0
	高経附	1	中央中等	1
	館林商工	2	運動公園	3
	【西毛総合】	6	【西邑楽】	3
	樹徳	6	【西桐】	10
	伊勢崎工	10	【あずま】	0
	【あずま】	4	【あずま】	0
	高崎商大附	4	【あずま】	0
	前橋	8	【あずま】	1